

子どもたちは語る

- ☆ 『(先生は)今は、勉強できる人だけに当てる。勉強がわからないので、ただ教室にいるだけ』
- ☆ 『(クラス一緒だけれど)ここにこなかったら私たちきっと口をきいてなかったよね。付き合わない人種だ(笑)』
- ☆ 『いろんな奴がいるんだな』と思った。

親の気持

- ☆ 自分一人で勉強するにも不安や限界がある。子どもが『学校よりもわかりやすい』と言っていた。
- ☆ 子どもから『勉強が楽しい』という言葉が9年間で初めて聞いた。今まで一度もなかった。本人もやろうという気になっていると思う。もっとこういう会があれば違ったのかな…。
- ☆ 一人で勉強すると言ってもそんなにすすむものではない。土日も仕事に行っているので目が届かない。親としてはこのような会にいらってもらうと安心。
- ☆ 毎日『今日はどうだった?』と聞くと子どもが『今日はこんな人が来て上手に教えてもらった』など楽しそうに様子を話してくれる。

コミュニティ問題としての生活保護(130億円・20人に1人・役割を失い、名も無き人が増えること)

☆自立支援の歩み6年を振り返って☆

- ①同好会から正式部活になった段階。正課授業になるためにはWG会議再開するなどプロセス(検討・まじわり)が大事
- ②居場所としての地域資源とその質に、傷つきからの回復、自尊感情の回復そして新たな自分形成への可能性
- ③受給者のエンパワーメント、双方向性の視点は支援の核心
- ④公的セクターとインフォーマルセクターの関係はパートナー(パートナーとして認め合う・連携という言葉でオブラートしない)
- ⑤『保護廃止、稼働収入増』評価と共に『意欲・笑顔などの新しい評価』を。情報公開など地域に拓かれた福祉事務所